

2010年(平成22年)10月15日(金曜日)

日刊

電波新聞

発行所 電波新聞社

東京本社
東京都港区東五反田1-11-15 千141-8715
☎03(3445)6111(大代表)

大阪本社
大阪市中央区北區3-2-25 (京阪淀屋橋ビル6階) 千541-0041
☎06(6203)3381(大代表)

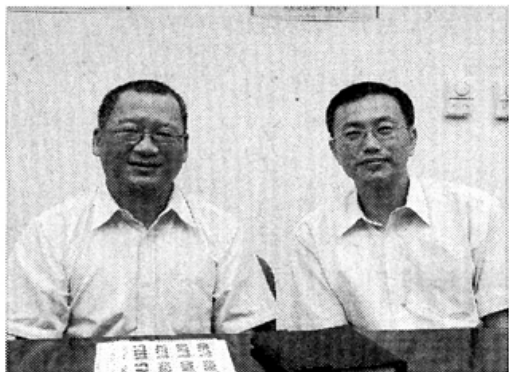
西部本社
福岡市博多区博多駅前2-13-23(福岡ビル) 千812-0011
☎092(43)7411(大代表)

©電波新聞社 2006

台湾・イノスター USB 3.0フラッシュメモリーIC量産

台湾のイノスター・テクノロジーなどの設計企業だ。

ノロジー(銀燦科技)は、台湾フアラデー・テクノロジー(銀燦科技)は、台湾フアラデー・テクノロジーのグループ企業として、業界初のシングルチップUコントローラやUSBストレーシコントローラ、ST・OPHY(物理層)IPトローラIC、高性能、低AⅢSDおよびSAT(知的財産)の完全サポートを特徴とするデュアルチャA対応インターフェイスICトを受け、これと自社開発のファームウェアを組み合わせた製品で、既に複数のクライアント認証を取得。



李総経理(左)と陳副総経理(右)

2.0から迅速な移行可能

次世代製品開発にも着手

合わせたUSB 3.0フラッシュメモリーICを業 李庭育・総経理(社長) 界で唯一、量 によくと、同ICを採用し

11月末には、USBインタフェース認証の獲得が見込まれている。

容量16ギガのフラッシュメモリー製品は、読み取り速度最大130メガバイト/秒、書き込み速度毎秒15メガバイト/秒を実現。USB 2.0から3.0への移行は、製造コストはほとんど変わらない。USB 2.0対応モジュールを使用できるため、3.0への迅速な移行が可能という。

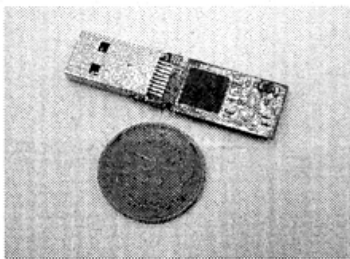
同社は現在、市場のリーダー企業としての地位を維持するため、USB 4.0「Light Peak」P H Yのサポートを見込んだ製品開発にも着手。11年12月(第4四半期)に

た容量16ギガのフラッシュメモリー製品は、読み取り速度最大130メガバイト/秒、書き込み速度毎秒15メガバイト/秒を実現。USB 2.0から3.0への移行は、製造コストはほとんど変わらない。USB 2.0対応モジュールを使用できるため、3.0への迅速な移行が可能という。

同社は現在、市場のリーダー企業としての地位を維持するため、USB 4.0「Light Peak」P H Yのサポートを見込んだ製品開発にも着手。11年12月(第4四半期)に

た容量16ギガのフラッシュメモリー製品は、読み取り速度最大130メガバイト/秒、書き込み速度毎秒15メガバイト/秒を実現。USB 2.0から3.0への移行は、製造コストはほとんど変わらない。USB 2.0対応モジュールを使用できるため、3.0への迅速な移行が可能という。

同社は現在、市場のリーダー企業としての地位を維持するため、USB 4.0「Light Peak」P H Yのサポートを見込んだ製品開発にも着手。11年12月(第4四半期)に



「IS9002」(中央の黒い正方形のチップ)と10円硬貨で大きさを比較

(台北支局)